



何よりも私を驚かせたのは、人々の温かさである。食べる物はいつも変わらず、お金に余裕があるわけでもない。決して多くを持っているわけではない。それでも、人々は本当に驚くほど温かい。持っているものの中で最高のものをゲストに振舞う。持っている人が、持っていない人と分け合う。ここにいる人が、ここに来た人をもてなす。目の前にいる人の肌の色が違って、言語が違って、信仰が違って、出逢ってしまえば「友人」なのかもしれない。すれ違った人が見知らぬ人でも、挨拶をきっかけに話し込んでしまうこともある。「ようこそ」、「来てくれてありがとう」、「来たからには、楽しんで行ってね」。当たり前にも聞こえるその気持ちを抵抗なく表せる人が、世の中にはどれくらいいるだろう。

2006年より栄養失調児の健康改善を目的に支援活動を開始したニジェールで、新たに2事業をスタート。

日本ではあまり知られていないニジェールについてご紹介します。

ニジェールはどこにある？

ニジェール共和国はアフリカ大陸の真ん中、サハラ砂漠の南に位置する内陸国(地図)で国土は日本の約3倍。

ニジェールはどんな国？

- 人口 : 1,150万人 1960年にフランスから独立
 - 公用語: フランス語
 - 宗教: イスラム教、アミニズム
 - 国民ひとりあたりの平均年収 : 約20,000円
 - 女性ひとりあたりの子どもの数: 平均8人
 - 5才未満の子どもの死亡率: 1000人中262人(世界で2番目に高い)
 - 世界177カ国中、第177位にランキングされる世界最貧国
- (国連開発計画人間開発指数参照)



資源も少なく国土の3分の2がサハラ砂漠で占められています。北部は乾燥地帯、南部は多湿地帯というサヘル気候に属しています。年間降水量の殆どが雨季(6月~9月)にもたらされ、その総量は日本の年間降水量(約1700mm)のわずか35%程です。

村落部でよく目に付く丸くてかわいらしい外観の住居。土を固めて作られたもので不思議なことに雨が降っても崩れない。



村の中学校は藁葺きの簡素なものです。ニジェール村落部での就学率は非常に低く、その大きな理由の一つは家事労働です。特に水汲みや子守りなどに借り出される女子児童の就学率は男子の34%に対し24%ほどしかありません。(JICA資料参照) タマの中学校



井戸は貴重な水源です。何時間もかけて水汲みにやってくる女性たちの1日の労働時間は家事や育児を含め約20時間とも言われています。しかし一部の井戸ではロバや山羊などの家畜が人と同じ水を飲んだり、糞をしたり、不衛生な水になっています。病気が感染症の原因になりかねません。



ブザ県一帯の村で主食となっているのは耐乾性に優れたミレット(唐人稗)やソルガム(もろこし)などの作物です。それを粉に挽き水と一緒に調理するのが主流です。村落部では野菜は殆ど食べられていません。ソルガムを飲む子供



栄養失調児をいち早く発見し適切な治療を行うため、アムルトがユニセフとの提携で行っている子供たちの身体測定の様子です。体重、身長そして上腕測定によってその値が年齢にあった発育の基準を満たしているかどうかで判断します。

栄養失調児識別のための身体測定(上腕)



栄養失調の子供にピーナツペースト 栄養失調児が発見された場合は、栄養価が高いピーナツペーストを特別に支給します。重度の栄養失調児は直ちに最寄りの集中治療センターに移送され治療を受けます。





JICA 草の根技術協力事業
 タウア州ブザ県村落部における
 乳幼児健康改善のための保健衛生教育および生活改善モデル事業

事業概要

事業期間: 2009年7月1日より 24ヵ月間
 対象地域: ニジェール共和国、タウア州 ブザ県内の3コミュニティ内10村落
 対象者 : 対象地域内の乳幼児(5歳未満) 約750人とその母親500人
 現地カウンターパート: アムルトインターナショナルニジェール

活動内容

講習会活動に参加した母親の家庭における乳幼児の健康状態が向上することを目標に下記の活動を行います。

保健衛生・栄養啓蒙活動を自主的に運営できるヘルス・トレーニンググループの育成

母親や女性たちへの保健衛生・栄養指導

保健衛生・栄養改善活動に必要な経済基盤への支援



事業の進捗状況

7月1日に開始したJICA 草の根技術協力事業は対象地域での10村落を決定し、各村落のヘルスグループ (HTGs) メンバーの選出が予定通り行われ、彼らの協力を得ながら各村でそれぞれ50名の母親の選出を開始しました。母親の選出基準は5才未満の栄養失調児を抱えている母親で、支援事業を理解し積極的に取り組む意欲があることとしています。全ての受益者となる母親の選出は9月中旬までには終る予定です。その後保健衛生、栄養指導が行われます。



(財)日本国際協力財団助成事業
 ニジェールの母親たちによるモデル集団農業の運営

事業概要

事業期間: 平成21年8月～平成22年3月
 対象地域: ニジェール共和国 ティラベリ州ウラム県のウラム行政区と
 トンデキウエンデ行政区の計2箇所の農地
 (各2と3ヘクタール、計5ヘクタール)
 対象者 : 家族の長である母親および女性約80人
 (間接受益者: 受益者の家族約560人)
 現地カウンターパート: アムルトインターナショナルニジェール

活動内容

収穫物もしくはその販売にて各母親の家庭の食糧自給が50%向上することを目指し下記活動を行います。

母親グループの組織化と農業トレーニング

母親たちを組織化し、技術と農具、灌漑設備を供給し、収入源にもなる作物を育てるための支援を行う。



事業の進捗状況

現在、現地の担当官と連絡をとりあい、村人のプロジェクトへの理解促進のための事業説明を行いながら、最終的な事業サイトの選定を行っています。

南部スーダン活動地域のご紹介

スーダン共和国概要

面積250万平方キロメートル

(日本の約7倍、アフリカ大陸最大の国)

人口:3,915万人(2008年 第5回人口調査)

首都:ハルツーム

人種・民族:主として北部にアラブ人、ヌビア人、ヌバ人、フル人、ベジャ人等。

主として南部にディンカ人、ヌエル人、アザンデ人、トボサ人、バリ人等。

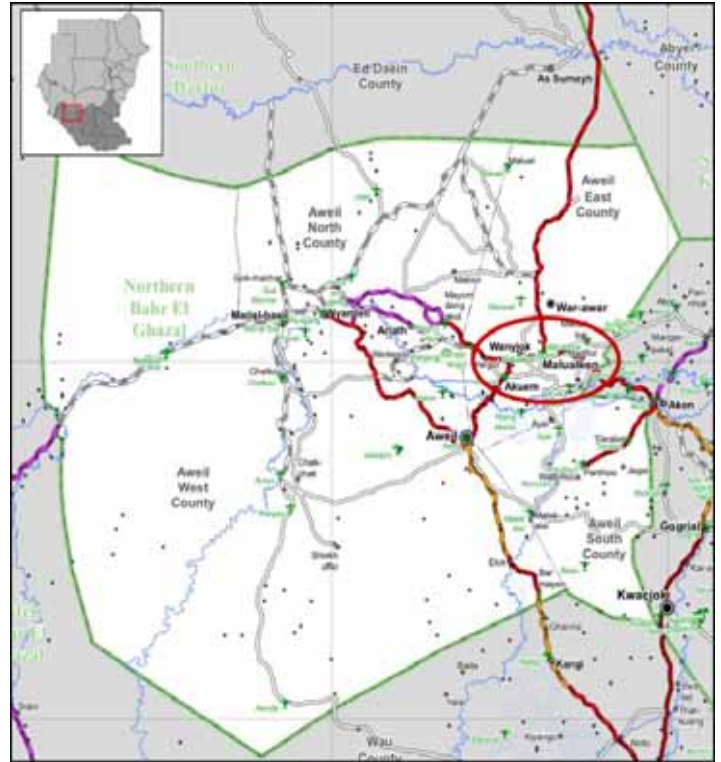
言語:アラビア語(公用語)、英語(公用語)

宗教:イスラム教(主に北部)、キリスト教(主に南部)、土着宗教
(外務省ウェブサイト 各国・地域情勢より抜粋)

アムルトジャパンの活動地域南部スーダン、北バル・アル・ガザール州
スーダン共和国はエジプト共和国の南に位置し、9つの国と接しているアフリカ最大の国です。青ナイル、白ナイルと呼ばれる2つの大きな流れに沿って北部の砂漠地帯、中部のサバンナ地帯、南部の森林地帯と気候も地域によって異なります。この国は1956年にイギリス・エジプトの共同統治から独立し、公用語はアラビア語。1980年代から南北内戦が続き、2005年に包括和平合意に至りました。近年では南部スーダンへの帰還も進んでいます。しかしスーダン西部のダルフル地方で起こった紛争は未だ解決せず、多くの問題が残されています。

私たちアムルトジャパンが活動している地域は、スーダン共和国 北バル・アル・ガザール州 アウェイル・イースト郡はスーダン共和国の南西部に位置し、北は南ダルフルと接しています。南部スーダンは森林や沼地が多くありますが、熱帯地方に多くみられる熱帯病はあまりありません。その代わりにこの地方特有のマラリア、麻疹、黄熱病などで命を落とす方が多くいます。

南部スーダンでは、2005年まで続いた南北対立やダルフル紛争で故郷を離れていた難民の方の帰還が進んでいます。アムルトジャパンが活動している3つの市場でも帰還民の方の店がいくつもあり、今後の帰還する方の増加を考えると市場の規模も大きくなっていくと予測されます。そのため、市場利用者の衛生に関する意識を向上させる必要性が高まっています。



北バル・アル・ガザール(Northern Bahr El Ghazal)州
丸印が本事業の活動地域

南部スーダン事務所に赴任して プロジェクトマネジャー 藻寄 聡子

国際ボランティア貯金の寄付金配分を受けて実施されている公衆衛生プロジェクトを、前任の日本人スタッフから引き継いで2ヶ月が経ちました。着任前は、スーダンの治安の悪さ、衛生環境の悪さ、医療機関が整備されていないなど、良くない情報を見聞きすることが多く、家族や友人を不安にさせてしまいましたが、着任後、大きな病気に罹患したり、事故にあうこともなく、初めてのプロジェクト運営に奮闘する日々です。

雨季が始まり、日中の気温は下がってきてはいますが、着任当時は摂氏50度に達する日が多く、暑すぎると頭が働かず仕事ができなくなることを実感しました。現在は日中の気温も30度から40度くらいまで下がり、だいぶ過ごしやすくなっています。

他のスタッフもそうですが、トレーニングやワークショップなどの活動でフィールドに出ていることがほとんどで、事務所で作業ができるのは1週間のうち、数えるほどしかありません。私のプロジェクト対象地は、車で20分ほどの比較的近い場所にありますが、対象地が離れているプロジェクトの場合、移動と活動でまる1日かかってしまいます。移動に使っている主要道路は舗装されておらず、雨が降ると泥道になってしまい、車が泥にはまって動けなくなり、対象地に行けなくなることも珍しくありません。

フィールドでは、活動がスムーズに運営できないことはいつものことで、フィールド活動を実質的に運営している衛生アシスタントに助けられながら、プロジェクトを実施しています。失敗や反省が多く、泣きたくなることもありますが、現地の方の笑顔を見ると頑張ろうという気持ちになります。他の事務所スタッフも困った時には、必ず助けてくれています。多くの方に助けられ、応援されて仕事ができていることに感謝の毎日です。



平成 21 年度国際ボランティア貯金寄附金援助事業 【南部スーダンにおける公衆衛生環境改善支援事業】

アムルトジャパンは 2009 年 5 月より南部スーダンにおいて公衆衛生環境改善支援事業を開始しました。

現地カウンターパートであるアムルトインターナショナルはスーダンで 10 年間活動を続けています。これまでアムルトジャパンはスーダンにボランティアを派遣しアムルトインターナショナルの事業に協力してきました。本事業はスーダンにおけるアムルトジャパンとしての支援活動第一弾となります。

事業概要

事業期間：2009 年 5 月～12 月

対象地域：北バル・アル・ガザール (Northern Bahr El Ghazal) 州、アウェイル・イースト (Aweil East) 郡 マルワルコン、ワンジョック、マドール市場

対象者：3 つの市場 (マルワルコン、ワンジョック、マドール) 事業者及び利用者それぞれ 3000 人

現地カウンターパート：アムルトインターナショナルニジェール

活動内容

2005 年のスーダン南北間の包括的和平合意以来、南スーダンではさまざまな復興活動が実施されています。農村の市場においては様々な商品が流通するようになり、地域社会の生活と復興の中心となっています。その一方で、市場における公共施設は未発達で、特にトイレやゴミ処理施設の未整備は、深刻な衛生環境悪化の原因となっています。

本事業では、市場におけるトイレ、井戸、ゴミ箱の設置と衛生管理意識の向上による、市場の衛生環境改善を行います。

事業の進捗状況

事業開始から4ヶ月が経ち、各市場ではワークショップなどが行われています。事業開始から現在までの進捗状況をお伝えします。

<5月> トイレ、ゴミ箱設置場所の選定を開始しました。当初から対象市場のマルワルコン、ワンジョック、マドールの3市場間の連携の確認が行われました。

<6月> ワンジョック市場で1回目の市場利用者に対するワークショップを開催しました。ワークショップの内容は、適切な水の管理方法や不衛生な環境の下で感染する病気の防止法、トイレ利用の重要性などです。

<7月> マドール市場において、1回目の公衆衛生ワークショップを実施しました。またワンジョック、マドール市場にて、1回目の公衆衛生キャンペーンを行いました。そしてワンジョック市場ではトイレの建設が始まりました。

<8月> マドール、ワンジョック市場において2回目の公衆衛生ワークショップを実施しました。

今後の予定:

9月からは、マルワルコン市場で活動を開始すると共に、各市場での公衆キャンペーンと公衆ワークショップの更なる実施、トイレや井戸の完成とゴミ箱の設置を予定しています。



日常生活の絵やポスターを用いて視覚的に説明します



みんなで市場を掃除(ワンジョック市場)

参加者の声

今まで公衆衛生環境改善のプロジェクトが、マドールで行われたことはなかった。今回、本プロジェクトがマドールで実施されて、とてもうれしく思う。

本プロジェクトに資金を提供し、公衆衛生について学ぶ機会を与えてくれたドナーに感謝している。

2回目のワークショップには、もっと多くの参加者を募って、公衆衛生の意識を高めていきたい。

定期的に市場を掃除する日を設定して、市場をみんなできれいにしていきたい。

平成20年度国際ボランティア貯金寄附金援助事業

【知的障がい者のための地域に根ざした家庭菜園活動による自立促進支援事業】

事業概要

事業期間: 2009年4月～2010年3月

対象地域: ゴール県

(アクメーナ、ゴールフォークラベッツ、イマドゥワ、ハバラドゥワ)

対象者 : 上記地域の知的障がい者とその保護者約400名

現地カウンターパート: アムルトインターナショナルスリランカ

活動内容

スリランカにおける知的障害者は障がい者全体の約25%を占めていますが、身体障害者に比べ家族への依存度が高く、家族も周囲の目を気にし自立への機会を与えない場合が多く見られます。また知的障がい者への効果的な自立支援制度は未整備で、知的障がい者は家族が守り家族に依存して生活する事が当然のようになっています。この状況を改善する為、家庭菜園活動を通じた知的障がい者の自立支援活動のプログラムの開発および専門指導員の育成を行います。本事業は、知的障がい者の社会性を刺激し自立支援を促すと同時に、基本的運動能力の維持増進を図り、安定した生活が送れるようにすることを目的として実施します。

- 1) 専門指導員養成コースプログラム開発と指導者育成
- 2) 専門指導員による障がい者への園芸指導
- 3) モデル家庭菜園の設置



事業の進捗状況

プログラム開発、指導員養成が終了し、8月10日より指導員による受益者たちへの園芸指導が開始されました。コースに参加する10才から25才の知的障がいを持つ人々が対象地域で合計206名選出されました。(男性113名、女性93名) 夏休み期間中に開催された第1回目から3回目までのコースには30人(女子7名、男子23名)の障がい児と25人の母親、1名の父親、2名の介護人の計58人が参加しました。本事業もコースは現地 NGO ヘラビームの協力を得て、合宿型で実施しています。

ヘラビームウェブサイト: <http://www.hellabeem.org/> (英語)

一日目のカリキュラム

- 8:30-9:00: 朝食
- 9:00-10:00: リラクゼーション エクササイズ
(自己紹介や自然との触れ合いを楽しむ活動)
- 10:00-11:30: デモンストレーション菜園でプログラムの説明
- 11:30-11:45: ティータイム
- 11:45-1:30: 家庭菜園プラン作り
- 1:30-2:30: ランチ
- 2:30-4:30: 家庭菜園プラン作り
- 4:30-6:00: 休憩
- 6:00-7:00: 日常生活動作指導
- 7:00-8:00: 夕食

第1回目のコースに参加した母親のB. M. A. Siriyawathi さん(44才)

自分の最初の子どもが知的障がいを持っていると分かったとき、とても悲しい思いをしました。子どもの頃から攻撃的、暴力的な性格だったため、主人と私は娘の状態が良くなるように様々なことを試みました。弟は姉の面倒を良くみます。弟が言葉などを教えるようになってから娘は少しずつ落ち着きを見せるようになりました。知的障がい児を持つ親は私達と同じような経験をしていると思います。私たちはこれは運命、業だと思っていますが、決して娘を嫌うことはありません。

今回のアムルトの支援プログラムは娘と一緒に参加する初めてのプログラムでした。息子も一緒に参加させていただき、姉の面倒を見れる様配慮してもらいました。プログラムでは娘に対する接し方を見直すことを学び、娘を教育できる、自立させてあげられるという強い意志を持つことができました。娘は家に帰り、家族と一緒に家庭菜園を始めることにとっても意欲を見せています。私もまた娘の自立を信じるできるようになりました。個人指導の中で小額のお金の管理をさせることを勧められました。家に戻ったらアドバイス通り始めようと思います。娘が自立できるように。



左から母親、弟、受益者のS.A. Ishara Madubashini さん(14才)

食欲の秋、芸術の秋... アムルトジャパンのイベントでアートな国際協力を体験してみませんか？

9月 食欲の秋～スリランカカレー料理教室～

今話題のスリランカカレーの料理教室を開催致します。本格スリランカカレーの作り方を学ぶほか、スリランカに関する様々な情報を写真と映像でお楽しみ下さい。また、希望者はサリーの試着をすることができます。

今年5月に内戦が終結し、今後ますます注目を浴びるスリランカ。この機会に是非スリランカ通になってみてはいかがでしょうか。

【開催日時】2009年9月26日(土) 10:00-14:00

【場所】菅刈住区センター

(東急東横線、東京メトロ日比谷線 中目黒駅 徒歩12分)

【参加費】2,500円 【持ち物】エプロン 【定員】20名

【講師】山崎シルヴァさん(フードコーディネーター)



当日はスリランカの女性達で作ったボビンレースやヤシの繊維を紡いで作った猫マットの展示も行います。なお、純益はアムルトジャパンが支援するスリランカの人々の自立支援の為に使われます。

ご応募の際はメールの件名を「9月26日スリランカカレーワークショップ参加希望」とし、info@amurt.or.jpまたは下記必要事項をご記入の上ファックス(03-3338-3544)までお送りください。

お名前 ご連絡先(電話もしくはE-mailアドレス) ワークショップを知ったきっかけ 当日、スリランカやアムルトジャパンについて聞きたいことがあればお書き下さい。

10月 芸術の秋～スリランカ手編みレースを使ったグリーティングカード作り～

今年3月に開催し大変好評を頂いたレースを使ったグリーティングカード作りのワークショップを開催致します。作成したカードは出産祝い、誕生日祝い、結婚祝い、クリスマスカードなど、様々な用途にご使用いただけます。ハギレの布や紙を切って貼るだけの簡単な作業なので、小さなお子様も安心してご参加いただけます。

【開催日時】2009年10月2日(金) 18:30-20:00

【場所】東京ウィメンズプラザ 第二会議室 (東京メトロ銀座線他 表参道駅 徒歩7分)

【参加費】800円 【定員】20名

【持ち物】はさみ、カッター

グリーティングカードに使いたいハギレ、ビーズやリボン、素敵な包装紙、外国の切手の余りなどあればお持ち下さい。

アクリル絵の具が服に着くと落ちないため、当日はなるべく袖をまくれる服装でお越し下さい。

ご応募の際はメールの件名を「10月2日スリランカレースワークショップ参加希望」とし、info@amurt.or.jpまたは下記必要事項をご記入の上ファックス(03-3338-3544)までお送りください。

お名前 ご連絡先(電話もしくはE-mailアドレス) ワークショップを知ったきっかけ



東京ウィメンズプラザ
フォーラム

上記イベントお申込後3営業日以内に返信がない場合は、お手数ですがお電話にて03-3338-3551まで

10月3日、4日 グローバルフェスタ JAPAN2009に出展します。

今年も日比谷公園で開催されるグローバルフェスタJAPAN2009に参加します。

アムルトジャパンの海外活動の様子を中心に皆様にご紹介します。また今年は新たな試みとして本年3月のスリランカ・スタディーツアーに参加した成蹊大学国際協力サークルM.I.X.のメンバーによるミニ報告会をブースで開催します。実際に現地を訪問した学生たちの報告は、国際協力に興味のある皆様のお役にたつことと思います。

スリランカの津波被災女性、障がい者の皆さんが製作したレースやねこ型コイアマット、バングル等の展示販売も行います。皆様のお越しをお待ちしております！

アムルトジャパンのブースはT-ゾーンの55-Bです。

みなさまへのお願い *from you...*

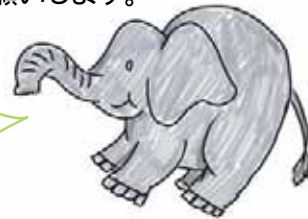
2000円で講習期間中の一組 (障がい者とその保護者) の食費が賄えます。



スリランカ、知的障がい者のための家庭菜園活動による自立促進支援事業は、昨年と同様、福祉施設 Hellabeem (ヘラビーム) で合宿型の園芸指導を行います。園芸指導を通して、障がいを持つ人々が精神的な安定を保てるようになることも期待されています。(本ニュースレター「活動報告スリランカ」ページをご参照ください) 助成金で補助できないトレーニング期間中の食費への皆様のご支援をお願いします。

200人の受益者が保護者と一緒に5日間のトレーニングを受講します。食費にかかる費用は合計で400,000円となります。

お振込は下記へお願いいたします。



銀行からお振込の場合
銀行振込口座：三菱東京UFJ銀行 銀座通支店
(普) 1231263
口座名義：特定非営利活動法人 AMURT Japan

郵便局からお振込の場合
郵便振替口座：00140-7-613-902
振込先名義：アムルト ジャパン
銀行からお振込の場合
ゆうちょ銀行 店番 019 店名 19店(ゼロイチキョウ店)
(当)0613902 受取人 アムルトジャパン

会員募集中 アムルトジャパンの活動は、皆様のご支援、ご協力に支えられています。

< 会員種類 >

個人正会員：年会費5,000円

個人賛助会員：年会費3,000円

法人・団体正会員：年会費50,000円

法人・団体賛助会員：年会費30,000円

寄付は一口1,000円から受付けております。

* 個人正会員は活動に意見を反映できます。また、アムルトジャパンより定期的な活動のご報告をさせていただきます。

会員登録、ご寄付ご希望の方は、下記必要事項をご記入の上、e-メール (membership@amurt.or.jp) または申込用紙をダウンロードの上、郵送またはFAXでお送りください。

< 必要記載事項 >

* お名前 * 郵便番号 * ご住所 電話番号 * e-メールアドレス * 会員種類 (ページ上部「会員種類」をご参照)
ご寄付回数 (ご寄付の場合) * ご意見、ご要望など * ニュースレター配信のご希望 * 印は必須項目です。

個人情報の取り扱いについて

送信された情報は厳重に管理いたします。なお、郵送やFAX(03-3338-3544)からでもお申込になれます。